

□2月9日説教(隅野徹牧師)短縮版

「神に代わって行く者」(イザヤ6:1~13)

神はイザヤに対して委ねられる任務を伝えられるのですが、それは非常に難解なものでした。それは、ユダの民の心をかたくなにさせ、耳を鈍くし、目を暗くさせるということでした。それは自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の心で悟り、悔い改めていやされることのないためだということです。

本来なら、預言者の語る使信は、民を悔い改めさせ、神に立ち帰るようにするために語られるものであるはずですが。それなのに、語れば語るほど結果はその逆となっていく…それは、実に虚しい宣教活動です。しかし、イザヤは、そのような状況でも神の言葉を語り続けるために召しを受けたのです。

イエス・キリストも仰っていますが、神の言葉は人を「右と左に」二分します。つまり罪が明確にせられます。明確だからこそ！「悔い改めようと受け止め者がうまれ」そして「神のもとに立ち帰ることができる」のです。

これは私たちがいえることですが、神の言葉を伝えようとしていたり、証したりしても「聞いてくれる人はごく少数」なのかもしれません。それでも！！「キリストの福音に基づいての証しは」、明確に神のもとに立ち帰ろうという思いを起こす方を「少数でも起こして下さるもの」なのです。でもただ厳しいことが語れるのではありません。他のイザヤ書の箇所と同じく「裁きと同時に、救いが語られる」のです。それが13節です。「それでも切り株が残る。その切り株とは聖なる種子である」という、この言葉は「イスラエルの中からイエス・キリストが誕生される」という聖なる希望です。この言葉は究極的に「神の独り子イエス・キリスト」を通して成し遂げられるのです。イスラエルの民たちだけではなく「全世界の民」が「この世の罪全体から」救い出される、そのことが約束されていると受け取りましょう。でもただ厳しいことが語れるのではありません。他のイザヤ書の箇所と同じく「裁きと同時に、救いが語られる」のです。それが13節です。「それでも切り株が残る。その切り株とは聖なる種子である」という、この言葉は「イスラエルの中からイエス・キリストが誕生される」という聖なる希望です。この言葉は究極的に「神の独り子イエス・キリスト」を通して成し遂げられるのです。イスラエルの民たちだけではなく「全世界の民」が「この世の罪全体から」救い出される、そのことが約束されていると受け取りましょう。(終)